

日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 3 回 助成期間：平成18年11月1日～平成19年10月31日

テーマ： まちの遊び場再発見－異なる遊び環境の相互理解を手がかりに

氏名： 吉永真理

所属： 昭和薬科大学

1. 課題の主旨

まちで遊ぶ子ども達は減少している。まちの遊び場再発見を通して地域・コミュニティの自然環境・歴史的環境の変遷や問題点を把握する。東京都世田谷区および沖縄県那覇市において、まちを探検し、場所や人を知り、つながりを把握し、さらに昔の遊び場環境やその変遷について学ぶ中で、児童が自身の暮らすコミュニティを評価し、新たな創造的な遊び場を発見するためのアクションリサーチを行う。地域をよく知ることは、危険回避能力を高めることにもつながっていく。地域社会に根ざして子育て支援を行っている児童館とその子どもたちとともに遊び場再発見活動を通して収集した質的データを、小学校を対象にした遊び場調査から得た量的データ解析によってより深く考察し、地域による子どもたちの遊び環境の相違を浮かび上がらせ、子どもたち自身に考える糸口を提示することを最終的な目標としている。

2. 準備

本研究は子どもによるアクションリサーチを指導する実践活動、地域社会に根ざした防犯マップ・遊び場マップづくり活動との連携と交流活動その基盤となる体験学習、および小学校を対象とした調査活動から構成される。

- 1) 遊び場再発見を目指したアクションリサーチ：地域間相互交流によるアンケート、パンフレット・マップ作成の実践活動、地域比較のための生活習慣・文化についての体験学習、対象者：沖縄県那覇市、東京都世田谷区の児童館の児童(小学生)
- 2) マップ作りを通じたコミュニティ・メンバーとの交流：那覇市金城児童館とその周辺児童館による防犯マップ作り活動と世田谷区池尻児童館を中心とする4世代遊び場マップ作成活動の連携。児童の関心を高めるための体験学習。対象者：地域住民、小学生
- 3) 遊び場にかんする質問紙調査：那覇市立久茂地小学校と城西小学校で実施し、遊び場と遊びにかんする質問紙調査を実施、さらに久場川・久茂地児童館でヒヤリングを実施し、東京で実施した結果をあわせて地域内および地域間比較研究を行い、結果を両地域の子どもたちに返していく(調査においては、沖縄の遊び場調査に多くの先行研究を持つ琉球大・清水肇先生と小野尋子先生にご指導いただいた)、対象者：小学生

3. 指導方法

1) 遊び場再発見実践活動：ユネスコGUICの活動でも用いられているアクション・リサーチのフレームワーク¹⁾に沿って、子どもたちとともにまちを歩き、探検し、遊び場を発見する。事前に、アンケートを子ども自らが作成し、東京と沖縄の児童館に通う子どもたちの間でやり取りをし、地域間で意見交換して、相互交流を図り、「自分のまちを紹介するパンフレットを作るとしたら」というキーワードで成果をまとめていく。成果は随時児童館内に展示したり、スタッフが中心になって子どもの活動の様子を映像資料を多用したニュースとして発行し、児童の他地域への関心を高めるとともに、コミュニティメンバーとの連携や地域間交流に活用する。

2) 体験学習：東京と沖縄それぞれの児童館児童が相互の社会・文化環境について関心を持ち、交流活動に参加する意欲を持つように、体験学習を実施する。食文化について知るために料理を行い、また郷土色豊かな民芸品の展示や紹介を行い、相互の地域イメージを交換する。

1) 子どもの参画ーコミュニティづくりと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際、ロジャー・ハート、萌文社、2004。

4. 実践内容

1) 参加者

児童館児童 30 名・スタッフ 8 名および研究代表者・コミュニティメンバー(大学生、保護者等)10 名

2) 活動内容

	場所	内容	詳細	資料作成
3月28-30日	金城児童館	打ち合わせ	防犯マップ作りメンバーとの対面、本実践活動の趣旨説明	
4月4日	池尻児童館	打ち合わせ	遊び場再発見活動の概要説明、	
		実践活動	「遊び見つけ隊」活動開始	
4月25日	池尻児童館	実践活動	メンバー募集、結団式	隊員証作成
5月15日	池尻児童館	打ち合わせ	プラン作成	計画案作成
5月24日	池尻児童館	実践活動	仮隊員登録	ニュース発行、沖縄へ発信
6月10-19日	那覇市周辺	調査活動	久茂地小学校・城西小学校における質問紙調査、金城児童館・久場川児童館・久茂地児童館における聞き取り調査	調査結果集計、統計解析後資料作成
6月27日	池尻児童館、三宿太子堂地域	実践活動	金城児童館スタッフに地域活動の場を案内	
		打ち合わせ	今後の交流活動打ち合わせ	
6月28日	池尻児童館	体験学習	沖縄のお菓子を食べよう	
		実践活動	金城児童館から届いたアンケート集計、模造紙に結果をまとめ、展示	ニュース発行、沖縄へ発信
7月5日	池尻児童館	体験学習	沖縄のお菓子を作ろう(ちんぴん)	ニュース発行、沖縄へ発信、映像資料作成
7月19日	池尻児童館	体験学習	沖縄料理を作ろう(そーみんちゃんぶる)	ニュース発行、沖縄へ発信、映像資料作成
		実践活動	パンフレット作成・実践活動資料のためのアンケート実施・集計	ニュース発行、沖縄へ発信、映像資料作成
8月21日	池尻児童館、池尻地域	実践活動	遊び見つけ隊活動	ニュース発行、沖縄へ発信、映像資料作成
		体験学習	沖縄料理を作ろう(ヒラヤチ作り)	
9月20日	池尻児童館	体験学習	沖縄料理を作ろう(マンゴーゼリー、パインアイス)	
9月27日	池尻児童館、池尻地域	実践活動	遊び見つけ隊活動	ニュース発行、沖縄へ発信、映像資料作成
10月4日	池尻児童館、池尻地域	実践活動	遊び見つけ隊活動	ニュース発行、沖縄へ発信、映像資料作成
10月18日	池尻児童館	実践活動	池尻児童館の遊びの紹介ビデオ撮影(スーパードッジボール)	映像資料作成
11月3-4日	那覇市周辺	打ち合わせ	活動報告と今後の計画、6月の調査対象者への報告	ニュース発行、東京・沖縄へ発信

5. 成果・効果

1) まちの遊び場再発見の実践活動(10 回)

まちを探検する実践活動は「遊び場見つけ隊」活動として隊員を募集する形で行った。本研究の実践の場となった金城児童館と池尻児童館はそれぞれ地域の防犯や遊び場マップ作りの核となってコミュニティ・エンパワメントを目指した活動を実践している。スタッフ交流や実際のマップの比較を通してコミュニティ・エンパワメントの手法を学び合った。とくに、金城児童館の防犯マップは第3回「ぼうさい探検隊フォーラム」において「わがまち再発見賞(日本災害救援ボランティアネットワーク賞)」を受賞した実績があり、一方池尻児童館では80年代に全国のさががけとなった三世代遊び場マップの四世代目の作成活動の拠点としてのノウハウがあるので、情報交換をはじめ、方法論の紹介を通して、相互交流を効果的に実現できた。また、児童に対しては危険箇所の把握とともに地域をよく知り、遊び場として愛着を持つことで危険回避能力育成につなげていく第一歩とすることが出来た。この成果については引き続き、金城児童館では親子で作る安全マップの作成において積極的な子どもの参加の促進²⁾、池尻児童館では4世代遊び場マップ池尻地区への遊び場・遊び内容情報追加に反映させていく³⁾。

2) 他地域の生活習慣、社会文化的背景を理解するための体験学習(5 回)

実践活動と同時に進行的に沖縄と東京、相互の地域についての知識を収集し、関心を高めていくために生活習慣・文化を紹介する体験活動を行った。食文化という身近な切り口から気候風土など自然環境の違いから使用する食材や味付けという伝統文化につながる要素に気づきが生まれた。さらに、東京・世田谷の特徴を体現する「もの」にはどんなものがあるかという議論につながり、他地域の友だちに自分のまちを説明するパンフレット作りへ興味・関心が移っていった。今後は実際の作業を通して自分のまちへの理解を深めていきたい。

3) 久茂地小学校・城西小学校における質問紙調査、金城児童館・久場川児童館・久茂地児童館における聞き取り調査

商店街のすぐ裏にある小学校と昔ながらの街並みの残る地域にある小学校では遊び場や遊び方に違いが見られた。入り組んだ街の路地での探検遊びや何世代にも渡って住み続けている町内での祖父母宅や地域の拠点である公民館での遊びなどコミュニ

ティの特性は子どもの遊び方に大きな影響を与えることがわかった。
よく遊ぶ遊び場の1位～10位

J小学校										
順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
女子	自分の家	友達の家	祖父母宅	公園	学校	道	庭	校庭	体育館	公民館
人数	200	138	101	87	81	69	58	43	31	31
割合	20.2%	14.0%	10.2%	8.8%	8.2%	7.0%	5.9%	4.3%	3.1%	3.1%
男子	自分の家	友達の家	公園	道	公民館	祖父母宅	学校	広場	庭	校庭
人数	163	157	91	66	64	63	55	53	39	36
割合	17.2%	16.5%	9.6%	6.9%	6.7%	6.6%	5.8%	5.6%	4.1%	3.8%
全体	自分の家	友達の家	公園	祖父母宅	学校	道	庭	公民館	広場	校庭
人数	363	295	178	164	136	135	97	95	84	79
割合	18.7%	15.2%	9.2%	8.5%	7.0%	7.0%	5.0%	4.9%	4.3%	4.1%

K小学校										
順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
女子	公園	自分の家	友達の家	学校	祖父母宅	児童館	広場	校庭	道	体育館
人数	52	51	40	23	22	21	15	10	9	7
割合	18.2%	17.9%	14.0%	8.1%	7.7%	7.4%	5.3%	3.5%	3.2%	2.5%
男子	公園	自分の家	友達の家	学校	広場	児童館	校庭	祖父母宅	道	庭
人数	53	48	31	27	23	18	15	14	8	6
割合	18.9%	17.1%	11.0%	9.6%	8.2%	6.4%	5.3%	5.0%	2.8%	2.1%
全体	公園	自分の家	友達の家	学校	児童館	広場	祖父母宅	校庭	道	庭
人数	105	99	71	50	38	36	36	25	17	12
割合	18.6%	17.5%	12.5%	8.8%	6.7%	6.4%	6.4%	4.4%	3.0%	2.1%

参考資料

2) 嶺井恵里子、防犯活動をととした地域づくりの仕掛けー那覇市金城児童館での取り組み、第8回全国児童館・児童クラブ沖縄大会第6分科会事例発表、2007

3) Kinoshita I. Children's Participation in Japan: An Overview of Municipal Strategies and Citizen Movements Children, Youth and Environments 17(1), 2007

6. 所感

地域間交流は映像手紙など限定的なものになったが、相互の地域への関心を高め、次の活動の計画につなげることができた。マップなどの成果物作成に子ども参画を促進する方法論についても学びあうことが出来た。

7. 今後の課題や発展性について

昨今の社会状況においては、地域の遊び場の確保はまちの防犯活動や子ども自身の危険回避能力の向上と不可分の課題となっている。遊び場見つけ隊のネーミングの背景には、子どものあげる遊び場が「学校」や「児童館」など大人の目の届く限定された場所に集中しがちだったことをかんがみて、もっと地域の遊び場を見つけて、遊んでほしいという目的意識もあった。実際に実践活動を通したまち歩きではいつも見かける公園でも大勢の仲間が集まると違った遊びが生まれ、新しい遊び場のように再認識されることもあった。子どもと一緒に見つける活動、アクション・リサーチの有効性が確認された。しかし、一方、「親子の安全マップ」や「四世代遊び場マップ」では保護者の意識や関心をどのように高め、エンパワメントしていくかが大きな課題として残った。子どもとともに「地域」や「遊び」について考え、行動してくれる保護者をどのように取り組み、さらにその外側のコミュニティ・メンバーと連携していく方策を今後とも模索していきたい。

地域間交流については助成期間内には、映像手紙のように互いの状況を知らせあう段階にとどまったが、今後行政が提供する助成の枠や民間助成の獲得を通して、実際に子ども達が出会って交流する計画を継続して実施していくことが決まっている。本助成研究の成果はその基盤として重要な礎を築くことが出来たと考えており助成に深謝している。

8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

小野塚昂平、難波伸幸、吉永真理、子どもの遊びとコミュニティ特性の関連性、こども環境学会、(発表予定)
Yoshinaga M., Kinoshita I., Terauchi Y. Short trip method around the town to discover and realize a safe and attractive play spots in neighborhood. Children, Youth and Environment (in preparation)